



RBC HiYield Gel/PCR DNA

Fragments Extraction Kit

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名：HiYield Gel/PCR DNA Fragments Extraction Kit

カタログ番号：YDF100, YDF300

会社名：有限会社サイトローブ

担当部門：マーケティング営業部

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島 3-21-5

電話番号：03-3834-2525 FAX 番号：03-3834-2550

2. 組成・成分情報

内容物 1：PD3 緩衝液

(成分)

m-グアニジンチオシアン酸塩 CAS-No. 00593-84-0 50～100%

酢酸 CAS-No. 00064-19-7 10～25%

内容物 2：洗浄緩衝液

危険有害成分なし

内容物 3：EB 緩衝液

危険有害成分なし

3. 危険有害性の要約

内容物 2, 6：作業上の暴露の危険性はほとんどない、あるいは人体への有害性はない。

内容物 1：注意！ 刺激性あり。飲み込むと有害。皮膚のアレルギー反応を引き起こす可能性がある。動物実験により生殖毒性の可能性が示されている。

危険度の分類：

WHMIS 分類（0 ～ 4 の 5 段階）

人体への危険度 = 2

火災の危険度 = 0

反応性 = 0

腐食特性：データなし

4. 応急措置

眼に入った場合：眼を開いて多量の水で 20 分以上洗い流す。化学物質による汚染を防ぐため、頭を前に傾げる。コンタクトレンズは外し、洗浄してから使用する。すぐに医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：石鹼と水で洗い流す。付着した衣服は脱ぎ、すぐに洗濯する。革製品に付着した場合は、すぐに取り外し、洗浄してから使用する。刺激が続く、または強くなる場合は、医師の診察を受ける。

吸入した場合：新鮮な空気のある場所へ移動する。呼吸に異常が認められる場合は酸素吸入の処置を受ける。呼吸が見られない場合は、人工呼吸を行った後、酸素吸入の処置を受けさせる。すぐに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合：

内容物 1：吐かせず、すぐに医師の診察を受ける。希釈するためにコップ 2 杯の水または牛乳を飲む。

医師の方々へ： 症状を治療して下さい。

5. 火災時の措置

消火剤：水噴霧、二酸化炭素消火剤。火が大きい場合は水噴霧または耐アルコール泡消火剤を使用する。

消火方法：可燃性ガスを吸い込まないこと。

6. 漏出時の措置

法令等において報告義務やその他の指示の対象となる場合があります。「8. 暴露防止措置」を参照して、保護具の着用などの措置を取って下さい。

除去方法：

内容物 2， 3：一般的な吸収剤を用いて漏出物を除去し、適切な廃棄物用容器に回収する。

内容物 1：漏出物への暴露により刺激や健康被害を受ける可能性がある。「8. 暴露防止措置」記載の防護措置を取ること。さらに、漏出した物質や量、場所などによっては、警告を表示する必要があると考えられる。漏出現場の労働者の専門性も考慮する必要がある。漏出場所では換気を行い、健康影響や環境影響を最小限に抑えるため、漏出物が広がるのを防ぐ。「8. 暴露防止措置」記載の保護具を着用し、粒状粘土など適切な吸収剤を用いて回収し、適切に処分されるまで密閉容器に入れて保管する。

7. 取扱上及び保管上の注意

保管方法について、法令等による規制の対象となる場合があります。

取扱い：

内容物 2， 3：使用の都度、容器を密閉する。

内容物 1：刺激性のある、または、有害な物質である。皮膚や眼に触れたり、吸引したりしないよう注意する。十分に換気した場所で使用し、使用後は容器を密閉する。

保管：酸と一緒に保管しない。環境気圧。

8. 暴露防止措置

暴露限度：

成分名	OSHA	AGC I H
グアニジンチオシアン酸塩	不明	不明

設備対策：過剰暴露を防止するため、本製品の使用場所には局所排気装置等を設置する必要がある。また、本製品の使用場所の近くに洗眼設備、安全シャワーを設ける。

保護具：

各保護具は定期的に洗浄する。

保護眼鏡 - 保護眼鏡

保護手袋 - 耐薬品性保護手袋。薬品の漏出がないかどうか検査し、定期的に交換する。

保護衣 - 使用状況によって白衣等の保護衣を着用する。

呼吸器用保護具 - 不要

衛生対策：飲食前や作業終了後は、手及びその他の露出部分を低刺激性の石鹼で洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状：液体（溶液または懸濁液）

臭い：無臭

物理的状态が変化する温度範囲

沸点：データなし

引火点：データなし

引火性限界：データなし

発火点：データなし

比重：データなし

揮発性：データなし

蒸発速度：データなし

粘度：データなし

10. 安全性及び反応性

安定性：標準的な状態で安定。

避けるべき条件：アルカリ、酸化剤と反応する。

危険有害な分解生成物：有害な熱分解生成物を発生する危険がある。

11. 有害性情報

毒性：

皮膚：皮膚および粘膜への強い刺激がある。

眼：強い刺激があり、重度の損傷を与える危険性を有する。

標的臓器：中枢神経系

発がん性：

NTP（国家毒性プログラム）：対象外

IARC（国際ガン研究機関）：対象外

OSAH（邦職業安全衛生法）：対象外

可能性のある健康影響

眼：中程度の刺激、流涙・発赤作用をもたらす可能性があるが、眼組織に対して回復不能な損傷を与える可能性は低い。また、重度の刺激を起こす可能性もある。眼に入ると、角膜に損傷を受ける可能性がある。著しい発赤や結膜の腫れを伴う不快感や痛み、過度のまばたき、流涙などの症状を引き起こす可能性がある。一時的な視力障害（眼のかすみ等）を引き起こす可能性がある。

皮膚：中程度の皮膚刺激、脱脂、皮膚炎を起こす可能性があるが、回復不能な損傷を与える可能性は低い。皮膚のアレルギー反応を引き起こす可能性がある。

吸入：軽度の呼吸刺激、めまい、脱力感、倦怠感、吐き気、頭痛を起こす可能性がある。重度の刺激や組織損傷を引き起こす気道腐食性を示す可能性がある。蒸気を深く吸入し肺に至った場合、肺から急速に吸収され、特定の臓器障害を引き起こす可能性がある。吸入における毒性は示されていない。

慢性影響：発がん性に関するデータなし。高用量投与動物実験により生殖毒性の可能性が示された物質が含まれている。

12. 環境影響情報

内容物 1： (water hazard class 2)。水生環境に対して有害。本製品を地下水や水路、下水道に放出させてはならない。

13. 廃棄上の注意

関連法令等を遵守して適正に処理する。（内容物 1 について）家庭ごみと一緒に廃棄してはならない。

14. 輸送上の注意

IATA DGR（国際航空運送協会危険物規則）：適用規定なし

15. 適用法令

労働安全衛生法：施行令第18条の2 名称等を通知すべき有害物

16. その他

この製品安全データシート情報は、各種の文献等に基づいて作成していますが、必ずしも全ての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意をお願いします。

また、危険有害性等の記載内容に関して、いかなる保証をなすものではありません。